

年号：2011年

月日：1月26日

災害名：新燃岳噴火の概要

新燃岳位置図



出典：国土地理院

【2011年1月新燃岳噴火の概要】

- 2011年1月26日、鹿児島県と宮崎県の県境にある霧島山新燃岳（標高1,421m）が激しい軽石噴火を起こした。
- 今回の新燃岳の噴火は突然始まったわけではなく、2008年8月22日に起こった噴火が一連の活動の始まりだったと考えられている。この噴火では、山体西斜面に新たな割れ目火口列ができたが、その噴出物中には新しいマグマに由来する粒子は見られなかったため、水蒸気噴火（水蒸気爆発）だったと考えられている。

▼新燃岳噴火による被災状況

負傷者（重軽傷者）	宮崎県：41名、鹿児島県：1名
その他被害	都城市：自動車ガラス等破損 高原町：陽熱温水器、太陽電池パネル破損 小林市：車サンルーフ等破損 霧島市：窓ガラス等破損

出典：霧島山（新燃岳）の火山活動にかかる対応状況等（第40報）（H23.6.21 消防庁）

▼新燃岳噴火の経緯・状況

日付	状況
2011年1月19日	顕著な前兆現象なしに灰噴火（顕著な爆発を伴わずに火山灰を放出する噴火）が発生。火山灰は北西の風に乗って、宮崎県都城市から日南市にまで達した。
1月22日	ごく小さい噴火が発生
1月26日	午前中から15時頃にかけては灰噴火の状態が続いていたが、16時頃からは連続的な空振を伴う軽石噴火に発展。18時過ぎには噴火はいったん落ち着きましたが、翌27日2時頃から明け方まで再び激しい軽石噴火を起こした。
1月27日	夕方から軽石噴火が再度発生し、2時間程度続いた。
	26・27日の両日に風下側にあった都城市、三股町、日南市などでは多量の軽石や火山灰が降り、火口から7-8km離れたところでは火山レキによって車のガラスが割れるなどの被害が発生。
1月28日	火口内に直径数十mの溶岩ドームが見つかる。
1月31日	朝には、火口内いっぱい広がった溶岩が観察
2月1日	爆発的噴火発生。火口から3.2km離れたところにも火山弾が落ち、山林火災が発生。鹿児島県霧島市方面では、空振によって窓ガラスが割れ、ケガ人も出た。
～2月8日	数時間から数日間隔で爆発的噴火を繰り返し、連続的に噴煙を上げていたが、徐々に噴煙は断続的となり爆発の頻度も低下。
～2月14日	やや大きな爆発があり、風下の宮崎県小林市の広い範囲に火山レキが降って車のガラスが割れるなどの被害を生じたが、それ以降、被害を出すような噴火は発生していない。

【新燃岳噴火の被災状況】



▲新燃岳火口



▲都城駅周辺

出典：「新燃岳撮影写真」国土地理院 HP <https://www.gsi.go.jp/kibanjoho/kibanjoho40015.html>



▲新燃岳噴火（高原町より望む）



▲火柱と火山雷（1月27日夜中、高原町役場より望む）



▲降灰の様子（高原町）



▲農作物の被害

出典：高原町教育委員会「新燃岳噴火 百人の記録」